

## 三好市「生涯活躍のまちづくり」構想のための官民検討会

### 【議事概要】

1. 日 時：平成28年3月17日（木）13時30分から15時まで
2. 場 所：三好市池田総合体育館1階会議室
3. 出席者：委員6名中5名出席
4. 議事次第
  - (1) 座長の選出について
  - (2) 今後のスケジュールについて
  - (3) 三好市生涯活躍のまち構想（案）について
  - (4) 意見交換
  - (5) その他
5. 議事概要

### 【事務局】

それでは定刻が参りましたので、只今から第1回となります三好市生涯活躍のまちづくり構想のための官民検討会を開催させていただきます。

本日は第1回目の会議ということでございますので、本会議の座長が選出されますまでの間、司会進行をさせていただきます。それでは開会にあたりまして、三好市副市長新居政昭よりご挨拶を申し上げます。

### 【副市長】

本日は大変皆様それぞれご多用の中、そしてまた遠路お越しいただきまして誠にありがとうございます。

委員皆様方には、ご就任のご快諾をいただいたものと思っております、真摯なご議論の中で我々に対していろいろご教示いただきたいということでお集まりいただきました。

本市も、各方面に消滅可能性都市ということで取り上げられ、いろいろ市民の皆様からご意見等をいただきまして、その後国の地方創生人材支援制度を活用するなどし、三好市の持続可能なまちをどうしていくかということ職員の人材育成も兼ね、進めてきたわけでございます。

それから約1年が経とうとしています。この間、今回の三好市型のCCRC構想案をそれぞれ

官民連携により精査しながら取りまとめてまいりました。

構想案について、今日は忌憚のないご意見をいただき、基本的な方向性、また基本コンセプトをしっかりと位置づけ固めながら、これからの基本計画、実施主体の事業主体の事業計画を選定しながら、三好市民から応援していただけるような三好市型C C R C構想の形を創りたいと思う次第でございます。

国立社会保障人口問題研究所（以下「社人研」という。）の発表で、国勢調査が昨年10月にありましたけれども、速報値がこの度出されました。前回では予想よりも2200人少なくショックを受けたわけですが、今回も数値が落ちこむことも懸念しておりましたが、速報値では社人研の予想よりも400人ほど多く、これはいろいろな観点があると思えますけれども、リーマンショック以降、また東日本大震災を含めマインドに変化が生じてきたことでもあります。三好市合併して10周年になりますけれども、これまでの施策が少しずつ功を奏してきた面もあるのかなと考えたりもしております。

そういう中で総合戦略の中で重要な位置づけとなる三好市型C C R C構想について、今日はぜひ忌憚のないご意見を出していただきながら、さらにブラッシュアップした構想案を取りまとめていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

#### **<事務局説明>**

- ・三好市「生涯活躍のまちづくり」構想のための官民検討会の設置について「設置要綱」により説明
- ・委員、事務局等の紹介
- ・会議の公開、三好市ホームページで会議録の公開について説明

#### **<議事（1）について>**

- ・委員長・副委員長の選任

#### **<議事（2）～（3）について>**

- ・事務局から資料2～4について説明

#### **<議事（4）について>**

### 【座長】

それでは今から短い時間ではありますがけれども意見交換の方に移りたいと思います。ご意見あるいは事務局から今ご説明のあった構想案の内容への質疑も含めて、どなたからでも結構ですので発言をお願いしたいと思います。

### 【委員】

三好市には、すごく資源がたくさんあると思いますが、移住して住むときの資源の一つとして歴史があると思います。

仕事をしているときはいいとしても、ウィークエンドであるとか、自分の仕事が終わってからここで住もうとしますと、そういったものがとても支えになると思うので、そういうものをネットでもいいと思うし、パンフレット、勉強会でもいいと思います。そういった文化的に裏打ちできるものが一つあるんじゃないかと思います。

それから衣食住で言いますと食は非常にいいものがここはあると思っていて、例えば京都でしか手に入らない木の実であるとか、そういったものを皆さん知らないと思うし、源平芋などにしましても、来ていただいた方にとっても喜ばれる。そういったものも提供していくというのが一つではないのかなと思います。

### 【座長】

資源としての歴史をどういう風にPRしていくかという話であったと思います。この辺りについて、PRとか、生涯活躍のまち構想の中で、特にその外から来てもらう移住者を考えていくときに、このまちの魅力をどう伝えていくかが重要と思いますが、その辺りについて何か検討されていることや、構想案のなかのこういうところに入っていますよっていうのはありますでしょうか。それとも今後の検討課題ということでもよろしいでしょうか。

### 【事務局】

まず一つにございますが、先ほどにも出てきたんですが、ちょうど三好市というのはほぼ四国の中央に位置するので、これを何か使えないのかという考え方があります。例えばあくまでこれは仮説の段階ではございますが、四国の産直的な四国の中心としてその何か食のものが集まったりできないのかと。観光としても、ここにおいでになられた方が観光に行くにしても非常に移動がしやすいであろうというのを一つの売りにすると同時に、この三好市というのが非常に池田から祖谷に向けて奥が深いので、祖谷の観光も売り出せるのじゃないのかなということも考えて

おります。

**【委員】**

食のことで一言いいですか。実は池田の人もあまり知らないんじゃないかと思うんですけど、来てみて池田の市民の皆さんとも話しても意外と知らないのを驚きました。ここの蕎麦屋が、一般の人なのに知られてない。

寿司屋は、高知のものも入っていますし、瀬戸内海から入っているんですけど、非常にいいものが入ってきていると思います。毎日たたきが食べられるのはここだけだと思いますし、そういったものを意外と広まっていないというのが私の思いですね。

**【座長】**

地域資源の認識のお話ですね。

**【委員】**

歴史もそうだと思います。

**【座長】**

実際（構想の）中身をつくっていく上で、資源の認識、外に訴えること、中にいる自分たちを含めて可視化するような手段なり、施策と合わせて展開していくという旨の発言でした。

**【事務局】**

歴史につきましては、今回のプログラムの中では、徳島大学にしあわ学舎と連携できればと思っています。

徳大の先生方、地元の歴史に詳しい方がいらっしゃると思うので、是非連携していきたいと思いますが、地元にお詳しい身近な方がむしろ先生になってくれて学んでいくとか、ワークショップをやるとかを計画に入れていきたいと考えているところで、すぐに生涯学習というと、大学連携となってしまうがちですが、それだけではない、もう少しバラエティがあっていいんじゃないかと考えています。

**【委員】**

移住者、CCR C構想でいう移住者についてですが、まずは移住者を受け入れるという大きな

課題となってくると思うんですが、23 ページの生涯活躍のまち構想の形態の目標とする規模で、ミッションタウンによる移住者数 50 名（累積）、シニア層は累積 100 名ということではありますが、どのように確保するのかというところをしっかりとしていかなければならない。例えば、徳島ゆかりの方にはお声をかける、それは県外の都市部の方なのかとか、東京圏とか関西圏といったところで、拠点をつくって移住者を確保していく、そういった動きを先ず始めていかないと、器（受入側の施設整備）は造ったが、誰も来てせんでしたといった危惧があるのですが、そのあたりどのように考えているのでしょうか？

### 【事務局】

徳島県にゆかりがある人、または三好市出身の著名人、有識者をターゲットとして、三好市に関係する人たちをあらいだし、人材バンク的なものをつくってみてはというようご提言いただいております。このような方々は非常に経済的にも余裕があり、三好市に対して貢献したいという気持ちもおありになり、このような方々の中から移住してほしい方を絞り込み、戦略的にアプローチする必要があるのではないかとのご意見も頂いております。このことについては、三好市としましても十分検討してまいりたいと考えております。

### 【座長】

人材バンクというのは、この提言を受けて、これから調査検討し、どれくらいの人数がいそやかなのかとか、あと実際の目標とする規模とか実際の登録リストとの差がどれくらいあるのかとかそこらへんがわかってくるのですか？

### 【事務局】

まずその手立ての一つとして、資源の一つとして、近畿圏に三好市出身の方々の集まりである近畿ふるさと連合会がございまして、これは三好市合併前からの旧山城町時代よりのつながりがございまして、合併した後もこれまでの間ずっとこのつながりを維持しております。先ずはこのつながりから発展させていければとも考えております。なお東京圏にも同協会がございまして、この方々にもご協力をいただけないかと考えております。

### 【座長】

かなり、シニア層の 40 代の 100 人というのが、相当ハードルが高いかなと感じますが。

## 【委員】

旧三野町に農園付きの戸建の建物を建てているわけですが、これは賃貸と分譲でやっているわけですが、このような民間のノウハウもあり、どのような形でこれを周知して、移住者を獲得できたのか参考になるのではないかと思います。

## 【事務局】

お手元に配布しています市政要覧についてですが、市の移住施策や歴史なども掲載されておりますので、対外的なセミナーなど、この要覧も活用していきたいと考えます。

## 【委員】

日本版C C R C 構想有識者会議「生涯活躍のまち」構想（最終報告）の「6. おわり」についてですが、最後のパラグラフについては、最後の最後まで（有識者会議）委員からですね、これはやっぱり強調しておくべきだという意見が出て書き加えられた経緯があるわけですが、そのパラグラフをご紹介しますと「生涯活躍のまち構想は、単に生涯活躍のまちをつくることにだけを目的としているわけではない。人口減少時代においては、この生涯活躍のまち構想に向けた取組をきっかけとして、地域の魅力・地域の力の掘り起しや再発見につながり、あるいは他の政策や取組を巻き込む形で、それぞれの地域が維持・発展していくことを有識者会議として期待したい」とあり、今議論しているところも、これにかかわっていくんですね。つまり、東京一極集中を解消するために都会から移住者を呼んでその方々を将来面倒見るっていう、そんな部分的な話では決してないということなんです。

近江商人が良く使う「三方よし」という言葉があって、「自分よし、相手よし、世間よし」ということを「三方よし」といいます。まさに「三方よし」は「三（み）好（よし）」というイメージが広がってきました。

つまり、この生涯活躍のまちに移住してこられる方にとってハッピーでなければならない。これは前提ですが、受け入れるコミュニティの住民の方々、ひいては三好市の方々にとってハッピーな話にならなければならない。これをどうやって実現するかみんなで考えましょうというのがまず大前提であるということを最初に強調しておきたいと思います。

具体的な話になりますが、こういう話をはじめた時に要支援要介護の都会の住民の方々をこちらに押し付けるのかとか、あるいは介護保険の関係で住所地特例があるなしの方法論の議論、あるいはコンセプト自体の共有認識が行き届いていないうえでの、いろんな誤解がございます。やっぱり先ず都会に住んでおられる方々のなかで地方にふるさとに帰りたいと思われる方、あるいは

は全く異なる環境に移住したいという希望をもっておられる方の希望を実現するプラットフォームをつくりましょうというのが大前提となります。

年齢は（日本版C C R C構想有識者会議で）最後まで議論して、65歳以上が最初に盛り込まれましたが、そんなことやったら地方はハッピーではありません。もっと幅広く年齢は設定しましょう、サ高住の60歳も下げて原則50代でいいんじゃないですか、つまりはアクティブシニアですよねってところで話をし、さらに40代やもっと若い世代の方々にも積極的に移住をしていただく受け皿としてつくりましょうと、もしかするとその年齢層って相当若いところまで延長して広げてもいいのかと思います。延長した先に地域おこし協力隊の方がいらっしゃるじゃないかっていう考え方でもあると思うんですよね。一般的に地域おこし協力隊は20代、30代の方が多くを占めておりますけども、やがてその方々が定着し、10年、20年たてば40代、50代、そして最後は60代以上になっていきます。そういう方々が最後まで三好市に定住される、ここまでを考えていくとすると年齢は若いところからゴールまで、これを全体、ライフステージに応じて、回していけるようにするっていうのが大きな話ではありますが、C C R Cの構想を持続可能性のあるものにするには非常に重要だと思っております。幅広の移住政策の一環として捉え、その移住した方々の定着率を上げていくにはどうしたらいいか、ひいては来られた方々のサービスに特化してしまうと、先ほどいいました「三方よし」とはなりませんので、地域住民にとってもその地域が誇らしいほど非常にいろんな環境に優れた秀でた地域であり、そのサービスの受け手が生きがいも延長されている拡大されているという、そんな捉え方をすべきではないかと思えます。

それから、地方それぞれで置かれた環境に違いがありますが、例えば高知県で今何が一番問題になっているかという、事業承継が非常に問題になっています。中小企業、零細企業がほとんどである地域経済の担い手が減り、さらに継承する相手がないということで、休廃業に追い込まれている実態があります。事業倒産によって畳んでしまうケースと、それに対して休廃業にせざる得ないケースと比較してみると、今地方は休廃業の件数が倒産件数よりも多いという実態があります。さらにその平均値を出してみても地方で比較してみると、高知は平均より約2倍以上、休廃業件数が高いというデータがございます。これは何を意味しているかっていうと本当に人材の枯渇、不足っていうのが課題であり、最も深刻な課題となっているという状況を数字でも反映しております。ですから「まち・ひと・しごと」の「しごと」、雇用をつくると言われますが、雇用を守ることすらままならない状況であり、その事業主が継承できないということは、失う雇用数は増加していく可能性があるんですね。こういった事業承継の部分をいかに地域外で移住を希望されている方のなかからしっかりとマッチングをして担い手としてお越しいただけるかこ

れも一番重要な課題になっています。

先ほど言いました地域おこし協力隊も、各地方自治体がこういう人がほしいということで、しっかり提案されて、それをマッチングさせて概ね3年という形で移住をしていただくこととなりますよね。まったくこれと同じ仕組みでこの移住が定着し、地域おこし協力隊の場合は、今60パーセントぐらいの定着率っていうのがデータにございますけども、この定着率をもっと上げていく。さらには永遠に定着をしていただく。そんなふうには地域の課題で人材の不足といわれる部分が非常に顕在化し、深刻になっているところをどうやって解消するかっていう視点でストーリーに仕上げていくと「三方よし」につながっていくと思う次第です。

#### 【座長】

今発言があった全体のコンセプトについてですが、構想案の20ページにかかっている生涯活躍のまちのコンセプトでは、究極的には人生生活の質（QOL）向上推進型ということですが、こういったことを創っていくプロセスなりですね、それに向けて地域の内外の人たちが、いかに一体となってこのまちを魅力あるものとしていくのかというようなコメント、視点が入る余地があるのでしょうか？こういった話、ニュアンス的なものを（構想案の）どこかに盛り込んでいただくとありがたいなと思っておりますが、（事務局として）いかがですかね。

#### 【事務局】

「三方よし」ということばをこの中に使うぐらいのわかりやすさ、非常にわかりやすい言葉、例えば、話し言葉に近いことばで表現することも必要なのかとも思います。ぜひ参考にさせていただきます。

#### 【座長】

（構想案の）コンセプトとする「QOL」という言葉も浸透しつつあるが、三好市らしさといったものを（この構想案の）どこかに入れるとしたら、委員が示した「三方よし」というキーワードを是非参考にしてほしいと思います。

それと就業の話ですね、ここのなかでは「どのように仕事をつくるのか」だけでなく、「（今ある仕事を）どのように守っていくのか、継承していくのか」ということに関し、コメントというかフェーズが、私がみている中では（構想案のなかに）少し少ないかなという感じがしました。あえていえば26ページの高年齢者等のニーズに応じた就労機会の提供ということで書いていますが、ここをだけではないと思うんですが。

### 【事務局】

先ほど言われておりました事業継承に特化した明確なコンセプト、要するに「(この仕事があるので) 帰ってきてほしい」とか、こういう組み合わせができるなど、どうしても構想段階では絞込みにくいものとも思っております。

### 【委員】

「しごと」でいうと(三好市には)老舗がいっぱいあるんですよね。そういったものを守っていく、「酒蔵」をはじめとした老舗ではそういったところに力をいれられていると思うんです。

こういった老舗がなくなっていく、これは単に就労の場がなくなっていくだけでなく、本当に地域の良さが失われてしまうので、こういったものを守っていかなくてはならないと思います。こういったところに力をいれていかなくてはならないと思います。

### 【事務局】

事業継承の話っていうのは正直言って、委員からご指摘いただいたとおりだなと思っております。

一方で外から来るだけではなくて、今ある人を流出させないということがありますよね。それは(三好市に)魅力があれば留まるでしょうし、外からも(人が)来るということだと思えます。我々は外から人を呼込むことをどうしても考えがちなんですけど、今いる若い人、あるいはシニアを外に出さないというのも同時にあるのかなと思いました。

### 【委員】

「しごと」でいうと、病院というのは大きな雇用の場となります。関連を含み何百人という人に仕事されていますが、この方々が居てくださる、魅力を持たせるのは三好市の仕事であろうかと思えます。魅力がなくして人は集まらないと思うので、西部圏域で一番の魅力を持っているのはなんだと調べてみたとき、さきほど人材バンクの話をしておりましたが、人材バンクに登録される人材は1年2年という単年にかかわる人材の話ではなく、学生などへ呼びかけていくことが大事です。また「魅力づくり」と「人材」というのは同時にしていかななくては、なかなか獲得できるものではないと思います。

### 【座長】

全体的な話に関しては、未だまだとあるとは思いますが、個別の話にうつりたいと思います。特に（想定する場所等の）地区、地域のポテンシャルとか、対象としているところの（事業主体との）連携性だとか、その部分もふくめ個別の観点でもいいのでご発言があればお願いします。

### 【委員】

一気に、全面（市内全域に）展開し進めていくのは、なかなか難しいので、エリアを決め、居住空間があり、そこにどういう人が来て、何をやって、その結果コンティニングケアの部分はどう担保し寄り添っていくか、最終的にはこれがビジネスにならないといけないので、お金が回っていく仕組みが必要になってくるので、そのストーリーをどうやって描いていくのかが一点です。

それともう一つは、日本版CCRC構想有識者会議でも、（仮に）あるCCRCをつくりました。（規模は）100人なり200人なりそこに新しい移住者を受け入れます。仮にその時アクティブシニアで60（歳）ぐらいの人たちが来たとして、その人たちが一斉に年をとると「ニュータウン」が「オールドタウン」になり「ゴーストタウン」になっていく、ということは年齢構成をどれくらいで、どういう比率でまわしていけばいいのかという議論がある時は時間をかけて話し合われておりました。

その時にある委員は言われました。海外の例で移住を大規模にやった時には移住者の年齢構成を、今いる人たちの年齢構成に合わせるという先例もあるんだそうです。

宅地開発をやってるなか、わざと大規模に一斉に開発せずに、部分的に開発することによって年齢層が広がっていくというようなことをやっている地域もあります。どうやってこれを持続性のあるものにシフトしていくか。これはもう最初に相当考えないと、ある瞬間だけ良かったという話になると元も子もありません。そのあたり（日本版CCRC構想有識者会議では）議論がありましたので、今後具体的な計画を考えるうえで、どうなるのだろうではなく、イメージをもってシナリオをつくられたほうがよろしいんじゃないかと思います。

### 【事務局】

これまで（三好市の人口ビジョンについて）議論した中で、子育て世代の女性20代、30代の女性を増やしましょうというという方向性は出していますが、具体的に20代30代だけがいいのか話ですよね。そこはこれからの議論だと思います。極端な人口ピラミッドの足元をいかに少しでも太くするかという議論はしてはいますが、ご指摘あったようにもっと、全体的な話は深くはしておらず、何かヒントなりいただけましたらありがたいのですが。

## 【委員】

20代30代の子育て世代の女性は、どの自治体も喉から手が出るほど移住して来ていただきたい方なので、し烈な競争があるのが前提ですよね。

ですから、そういうところにいろんな工夫を各自治体がされているっていうのもご承知のとおりだと思います。

ちょっとCCRCと話がそれてしまうのかもしれませんが、例えば島根県の邑南町とか浜田市とか有名ですが、シングルマザーを積極的に受け入れておりまして、シングルマザーで介護福祉の資格を持っている方を積極的に優遇しながら移住を受け入れるっていうことが昨今ずっと注目されていて、成果を出しているということをご存知のとおりだと思います。

島根県の邑南町は平成24年に合計特殊出生率が2.65っていう数字を記録していて人口1万1千人規模なんですけど、たぶん日本の1718市町村のなかで一番高い出生率を持っていると思います。その背景には「子育て環境日本一の村をつくる」ということを内外にしっかりと発信し、その施策をかなり細かく打ってきている実績があります。そのうえで今のような工夫をされて一定の効果を生み出しているということだと思います。

したがって、今の子育て世代だけでなく、ライフステージを追うごとにずっとシームレスに展開をされる支援体制が必要となり、それが結果的に一定の年齢層の移住を実現する手段になるものだと思います。

アクティブシニア、ミッションターンの話を最初に申しあげましたけど、それをさらに広げて子育て支援までいう切れ目のない施策が求められているということにもなります。それが結果、年齢層を広げ、いい分布になると思います。

## 【委員】

旧の山城町では1992年、いわゆるバブル崩壊後に転入奨励事業をはじめ、一人当たり転入して移住してくれたら5年間、一人当たり50万円を支給しました。

しかし転入者だけでは三方よしの考え方にはならないんですよね。そのため結婚祝い金、仲人への礼金、引越費用、新婚家庭に150万円を限度に改修費用をあわせてセットで行っていました。しかし5年半でやめたんです。

成果は360人ぐらいがUIターンで定着して、うちIターンは1割ですね。その時に空き家の調査もしたりしましたが、結局最終的に使える空き家は約10戸で、Iターンの方は空き家を気に入って入居した経過があり、Uターンの方はだいたいアパートに入居したいと、それからは

公営住宅をだんだん建てていったんです。そういう経過からも「三方よし」にしなければ、C C R C構想は批判の対象になると考えますし、一か所だけが高齢化すると「オールドタウン」になり、「ゴーストタウン」になってしまいますので、全体的に広がりをもった施策を同時に打っていかなくてはならないと思います。現総合戦略の中に足りない施策は、同戦略を改定するなかで補充し、新たな施策を補充することでC C R C自体も相まってバージョンアップしていけるのではないかと思うんです。

### 【座長】

そういうバランスというものと時間軸でいろいろと変わったりする中で施策もそうだし、もしかしたらインフラとか仕組みを変えなきゃならない。

最初は今いる人を外に出さない、そのあとは来ている人をなんとか外に出さない、そのあとそこで（こどもを）生んで育てている人に、なんとか定着してもらおう。いろんなステップのなかで常にこの地域をうまく活性化していくための施策が必要だと思います。その中にお金の面と言いますか、フランスなんかでは高齢者の老人ホームというのはお金がかかるので自立性の高い住宅を駅前の住宅を改修しているんですが、その改修費用はここ（の施設）に入る人が積み立てたりしているんですね。お金がうまく回る、そのためには自分たちがこの地域を気に入ってここで住むんだという認識があってお金が回っていく。その結果財政負担もそれなりに抑制されながら自立性の高い住宅が整備されていくという例もありますので、すべて連携しているのかなと思います。

生涯活躍のまち構想自身は期間が限られていますけど、こういった計画をどうやってローリングして、常に継続性を担保していくのかということも非常に重要なポイントだと思いました。

### 【事務局】

事務局して考えるのは、継続性というのは1本のラインではなく、円になったり、球体であると思います。球体のなかの人が施策としてどうかかわれるのかということを経務局がイメージし、庁内組織が連携についても、参考にさせていただきたいと思います。

### 【委員】

昔、ドイツの偉大な科学者が、植物の生育を桶の中の水に例えたんです。桶のなかには木の板が張り巡らされていますが、窒素、リン酸、カリウム、肥料の成分、温度、水、光というのが、その一本一本の板だって捉えた場合、その植物の生育の程度っていうのは桶のなかの一番低い板の

高さによって決まります。例えば窒素が不足していれば、その板が短いから、ほかがいくら良くたって、桶の水は漏れ出していく、そんな風に表現をされたんですよ。

今の地方自治のいろんな施策を板として捉えていったとき、どこかに大きな欠点というかネックとなる部分があって、例えばそれが子育て環境であったり、医療であったり、介護だったり、仕事であったり、そんな低い板があるがために、桶のなかの水がダラダラと漏れ出している。もしかすると、（この流れ出した水を）受け留めているのは都会であるっていう風にみると、やっぱり抜けはあってはならないですね。全体が一定の高さがないといけない。でももっと言えば、その桶に水が入ってくるには、桶自体の魅力をPRしないといけない。

今の議論であったように「三方よし」というのは結局抜け目のないシームレスな施策を講じていって、結果、地域内の人も、外から見るとしても魅力的なものであり漏れがないものをつくっていく、その一つの表現方法がCCRCであるんですね。

#### **【座長】**

これから構想を取りまとめていく基本的なスタンスとなるとお思いますので、CCRCに特化するのか、全体でいくのかという話がありますが、この構想を具体化していくなかで、そういったコンセプトをうまく入れ込むという形で次回以降進めさせていただけるとありがたいと思います。

#### **<議事（5）について>**

#### **【座長】**

次回の件について最後に事務局の方からございましたらお願いしたいと思います。

- ・事務局から今後のスケジュールについて説明

以上